

これからの駆除処理・殺虫剤の動向 VIII

ーノンケミカルから抵抗性問題までー

「フェロモンの使い方を考える 2」

日 時：2019 年 3 月 1 日（金）13：00～17：00

場 所：大阪府立大学 I-site なんば C2（大阪市浪速区敷津東 2-8-1）

主 催：日本環境動物昆虫学会

＜企画委員 清水 伸泰（企画委員長）、大村 和香子、木村 悟朗、篠田 一孝、
引土 知幸、中嶋 智子、平井 規央、宮下 智行＞

参加費：

会員 2,500 円（個人会員・法人会員「維持会員・賛助会員」

学生 1,000 円・非会員 3,500 円（参加費には、テキスト代・消費税含む）

＜趣 旨＞

本会は「人間の生活環境を清潔、快適ならしめるため、昆虫及び動物の学術的・総合研究の発展ならびに被害防止技術の向上を促進すること」を目的とし、昭和 63 年（1988 年）11 月に設立、発足いたしました。環動昆セミナーでは、2012 年から「これからの駆除処理・殺虫剤の動向ーノンケミカルから抵抗性問題までー」というテーマを掲げ、今回で 8 回目を迎えました。

社会的な生活において問題となる「害虫」を防除する方法の一つとして、「フェロモン」が広く利用されています。昆虫フェロモンの多くは揮発性をもったにおい分子で、特に虫の繁殖行動に重要な役割を果たしています。このにおい分子を上手く利用して害虫の行動を監視・制御できれば、安全性が高く、抵抗性や環境負荷に配慮する必要のない防除法になりえます。

第 26 回セミナーでは「フェロモンの使い方を考える」の第二弾として、より効果的にフェロモン剤を使うため「モニタリング」を取り上げました。今回は虫の種類や生態、習性に合わせたフェロモントラップの開発や使用する上での有効性・課題等について、現場に携わる講師の皆さんに話題を提供していただきます。会員の方だけでなく非会員の方も奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

特集：フェロモンの使い方を考える2「モニタリング」

コーディネータ 西部化成(株) 篠田 一孝

1. 貯穀害虫の生態とフェロモントラップの基本仕様 (13:10~14:00)

富士フレイバー(株) エコモン事業統括部 佐々木力也

2. PCO 分野のユーザーによるフェロモントラップを

使ったモニタリングの話題 (14:00~14:50)

イカリ消毒(株)技術研究所 木村 悟朗

～休憩～

3. フェロモントラップによるハスモンヨトウのモニタリング

～見えたものと見えないもの～

(15:05~15:55)

京都学園大学バイオ環境学部 若村 定男

4. ゴキブリ防除用ベイトによるゴキブリ防除施工について

(15:55~16:45)

バイエルクロップサイエンス(株)エンバイロサイエンス事業部 開発部 大嶽 譲治

5. 総合討論 (16:45~17:00)

< 参 加 要 領 >

<参加申込> ファックス・郵便又はEメールでお申込み下さい。定員になり次第締切ります。

<申込み先及び問合せ先> 日本環境動物昆虫学会事務局

〒550-0005 大阪市西区西本町 1-11-1 (本町セントラルハイツ 407)

TEL・FAX 06 (6535) 4684 e-mail r.takagi@f2.dion.ne.jp

<参加費振込先> 三菱UFJ銀行信濃橋支店 日本環境動物昆虫学会 普通 3508064

..... キ ... リ ... ト ... リ ... セ ... ン

「第 26 回日本環境動物昆虫学会セミナー」 参加申込書

1. _____ 会員・非会員・学生. 2. _____ 会員・非会員・学生

住所 (勤務先・大学・自宅) 〒 _____

TEL _____ FAX _____ e-メールアドレス _____

所属 (会社名・部署/大学名・学部) _____

上記の通り参加申し込みます。→ 参加費は 月 日付けで、銀行振り込みします。

2019 年 月 日 書類送付者 _____
本状で得た情報は、次回のセミナーのご案内以外には使用いたしません